

授業科目の概要

人間科学科

入門

CK001 人間科学概論I

人間科学科で学び深めることのできる諸領域を知り、人間を見つめ直し自分を発見する学科の営みの第一歩として、心理学・コミュニケーション・言語科学の3つの専攻領域の間の関わりを中心に講義する。(チェーン・レクチャー方式)

1. 人間行動(心理学)の観点からは5回に渡る授業を行う。心理学は、人間の心を対象として科学的に探求してきた歴史を持つ。この5回の授業では、人間の心という捉えにくい対象をいかにして科学的に捉えるのかという方法論を紹介し、それを踏まえて、人間科学の基礎という観点から、心理学が明らかにしてきた人間の心の特性について概括する。
2. コミュニケーションの観点からは、Social Animal としての人間が、社会の中のどのような情報を受信し、社会を構成する他者と関わるのかについて、考察していく。人間を理解するためには、生物学的ヒトと社会的ヒトについての考察が必要である。社会的存在としての人間は、他者と共に生きている。グローバリゼーションが進行する今日、その他者の様相は多様化している。文化、宗教など、さまざまな背景をもつ他者との関わりが重要となる。多文化共生社会の中で、生きる人間について、論じていく。
3. 心理学、コミュニケーション研究との関連を中心に、人間の言語の特色を理解する。言語を生み出す脳のメカニズム、他の認知活動との関係、他の動物のコミュニケーションや他の信号体系との比較から、人間言語にはどのような構造的な特性(デザイン特徴)があるのかを考え、人間にとって言語を持つことの意義と「ことばを話す動物」としてのヒトに対する洞察を深める。

CK002 人間科学概論IIA

「人間科学概論」を受け、人間を探究する人間科学における心理学的アプローチについて解説する。心理学という学問の特徴を伝えることが本講義の目的である。共通テーマのもとに心理学専攻の教員が、各領域の研究のあり方・特徴の理解、その領域への関心の喚起のための講義を行う。講義の半数を基礎的・実証的アプローチによる心理学の立場からの講義にあて、半数を臨床的・実践的アプローチの心理学の講義に当てる。(チェーン・レクチャー方式)

1. 講義全体の趣旨や構成のオリエンテーションを行う。社会心理学(ミクロ)的アプローチについて解説する。
2. 発達心理学分野へのオリエンテーションを行い、発達心理学(社会性および情動の発達)的アプローチについて解説する。
3. 社会心理学(マクロ)的アプローチについて解説する。
4. 臨床心理学分野へのオリエンテーションを行い、臨床心理学の心理療法的アプローチについて解説する。
5. 臨床心理学のコミュニティ(教育・医療・福祉等領域)における連繋と支援について解説する。
6. 臨床心理学(特に女性と家族の発達支援のアプローチ)について解説する。

CK003 人間科学概論 IIB

情報通信技術、特にインターネット、と人間の関わりという観点から、人間科学科の学生の出発点となる授業をおこなう。まず、インターネットを支える技術について簡単に解説し、ウェブや電子メールの仕組みと活用法を理解する。次に、ヒューマン・コンピュータ・インタラクションとユーザビリティについて解説し、人間科学科で学ぶ諸授業との関連を指摘する。これらの授業を通じて、情報通信技術の活用法と人間を幸せにする技術について考えることが授業の目的である。

CK004 人間科学概論 IIC

人間の言語を分析的に理解するための基礎を学ぶ。人間の言語の特徴 言語の恣意性、観察される言語現象とその背後にあるシステム(共同体で共有される規約の体系、人間の言語能力の体系)、言語の諸相における単位(音素、形態素、語、構成素、文など)とその結合に見られる規則性、分析と比較により見いだされる言語間の共通点、社会的関係が言語使用に及ぼす影響などを理解し、人間の個体・社会の一部を成す言語についての考察の基盤を身につける。

卒業論文

CK901 卒業論文

学生が自らの知的関心に沿って研究テーマおよび問題提起を設定し、資料・文献をもとに仮説を立て、これを調査・実験・実習等により検証して、明確な根拠とともに提示するという一連の営みを通じて、学士課程での集大成として論文を作成する。それまでに得た知見・能力を統合してこの営みにつなげるために発展演習において考察・議論に必要な力を養い、担当教員の個別指導と授業内外の討論を活かして各自論文執筆を進める。卒業論文提出後、複数の教員による口述試験を実施し、論文の審査を行う。

心理学専攻

入門

CA001 認知心理学概説

この講義では、心理学の基礎となる認知・発達・社会・臨床の4分野のうちの認知心理学に焦点を当て、その基礎となる研究を習得することを目的とする。講義の範囲は、知覚・記憶・思考・言語など認知心理学の領域をできるだけ広く網羅する。人間の適応の中核をなす認知機能の基礎メカニズムを理解するとともに、認知心理学の応用研究とその意義について、ヒューマンエラーの研究や目撃証言研究などにも触れながら理解することを目指す。授業では、認知心理学の成果の理解を深めるため、視聴覚教材やデモンストレーションなどを利用する。

CA002 発達心理学概説

この講義では、発達心理学の基本的知識を習得することを目的として、講義を行う。人間の発達とは何かを考え、発達のメカニズムおよび発達を支える社会・文化的要因も含めて検討する。生涯発達心理学の視点から、乳幼児期・児童期・青年期・老年期について学んでいく。また、対人関係の発達・自己の発達・情動発達などの社会性の発達の側面と、知覚の発達・言語発達・コミュニケーションの発達などの認知発達の側面の両方について扱う。講義では、発達心理学の理解を促すために、視聴覚教材を用いる。

CA003 社会心理学概説

この講義では、特殊講義の社会心理学各科目を学ぶ上での前提となる、社会心理学の基本的知識を学ぶ。さまざまに異なる個人が関係を結ぶことで成り立つ社会において、その構成員である個々の人間は複雑な相互作用のもとに行動している。「社会心理学概説」においては、他者がいる場面での人の心理過程および行動、さまざまな対人関係、さらには個々人の行動の帰結として生じるマクロな現象まで幅広い領域を扱う。

CA004 臨床心理学概説

特殊講義の臨床心理学各科目を学ぶ上での前提となる、臨床心理学に関する全般的・基本的知識を習得する。まず、臨床心理学は如何にして、実証科学としての心理学から誕生して現在のような研究・実践(臨床)面での発展を遂げてきたのか、歴史的に振り返る。その上で、臨床心理学の3本柱である、査定論・治療論・地域援助論について、代表的な理論・技法を取り上げ、学生が短期間に重要なエッセンスを習得できるように講義を行う。

基盤講義

CA101 心理学基礎講義A

「認知心理学概説」「発達心理学概説」「社会心理学概説」「臨床心理学概説」の4つの講義の理解を踏まえ、心理学のさらに広汎な領域に渡る基礎的な内容の講義を行う。この講義では特に、脳と心の科学、生

理心理学、神経心理学など、主として心を支える生理学的な仕組みについての基礎的な理解を目指す。加えて、これらの領域の理解に必要な学習心理学の基礎などにも触れる。4つの領域の概説に加え、この講義および「心理学基礎講義B」の理解全体をベースにして、心理学のさまざまな領域に渡る特殊講義へと橋渡しされる。

CA102 心理学基礎講義B

「認知心理学概説」「発達心理学概説」「社会心理学概説」「臨床心理学概説」の4つの講義の理解を踏まえ、心理学のさらに広汎な領域に渡る基礎的な内容の講義を行う。この講義では特に、特殊講義の臨床心理学各科目で取り上げる事例を十分に理解できるように、その前提となる基本的な理解をしっかりと身につけることが目的である。代表的な心理療法について、理論・方法の特徴の概略を、講義と、VTR視聴や逐語録の一部を読むことなどを通して、具体的に理解しつつ学ぶ。

CA103 心理学研究法1

心理学の実証研究に不可欠な統計的知識、データ整理および統計分析を学ぶ。一般実験演習と対の関係にあり、一般実験演習において、実証研究のさまざまな手法を習得し、心理学研究法においては実験演習で得られたデータの扱い方、論文のまとめかたについての道筋を示す。この講義においては、心理統計の考え方について触れた後、記述統計および推測統計について、統計的な内容を実際の心理学研究に結びつけながら、数値例などを示しながら学んでゆく。推測統計については、パラメトリックな手法(t検定など)を中心に取り上げる。

CA104 心理学研究法2

心理学の実証研究に不可欠な、統計的知識、データ整理および統計分析を学ぶ。一般実験演習と対の関係にあり、一般実験演習において、実証研究のさまざまな手法を習得し、心理学研究法においては実験演習で得られたデータの扱い方、論文のまとめかたについての道筋を示す。この講義においては、データ整理、統計分析の実際を学ぶ。さらに、分析結果のまとめかた、論文の書き方について解説し、卒業論文執筆へ向けて基礎的な論文作成技能の習得を目指す。

特殊講義

CA201 認知心理学(思考・言語)A

「認知心理学概説」の理解を踏まえ、認知心理学の分野について、より発展的な内容を学習する。認知心理学は、カバーする領域が記憶・思考・推論・言語・意識など広範囲に渡るだけでなく、ヒューマンエラーの研究や目撃証言研究など、日常認知研究を初めとした応用面での研究も盛んである。この授業では、人間の適応の中核として機能している認知システムについて理解することを目指す。特に、日常場面と密着した思考・言語をはじめとする日常認知研究や応用研究などを中心にした授業を行う。

CA202 認知心理学(思考・言語)B

「認知心理学概説」の理解を踏まえ、認知心理学の分野について、より発展的な内容を学習する。認知心理学は、カバーする領域が記憶・思考・推論・言語・意識など広範囲に渡るだけでなく、ヒューマンエラ

ーの研究や目撃証言研究など、日常認知研究を初めとした応用面での研究も盛んである。この授業では、人間の適応の中核として機能している認知システムについて理解することを目指す。日本語教員養成科目でもあるので、言葉や言語情報処理などの内容を中心にした授業を行う。

CA203 認知心理学(思考・言語)C

「認知心理学概説」の理解を踏まえ、認知心理学の分野について、より発展的な内容を学習する。認知心理学は、カバーする領域が記憶・思考・推論・言語・意識など広範囲に渡るだけでなく、ヒューマンエラーの研究や目撃証言研究など、日常認知研究を初めとした応用面での研究も盛んである。この授業では、人間の適応の中核として機能している認知システムについて理解することを目指す。特に思考や言語、推論、意識などの内容を中心にした授業を行う。

CA204 認知心理学(記憶・認知)A

「認知心理学概説」の理解を踏まえ、認知心理学の分野について、より発展的な内容を学習する。認知心理学は、カバーする領域が記憶・思考・推論・言語・意識など広範囲に渡るだけでなく、ヒューマンエラーの研究や目撃証言研究など、日常認知研究を初めとした応用面での研究も盛んである。この授業では、人間の適応の中核として機能している認知システムについて理解することを目指す。特に記憶や認知に焦点をあて、主に基礎研究を中心にした授業を行う。

CA205 認知心理学(記憶・認知)B

「認知心理学概説」の理解を踏まえ、認知心理学の分野について、より発展的な内容を学習する。認知心理学は、カバーする領域が記憶・思考・推論・言語・意識など広範囲に渡るだけでなく、ヒューマンエラーの研究や目撃証言研究など、日常認知研究を初めとした応用面での研究も盛んである。この授業では、人間の適応の中核として機能している認知システムについて理解することを目指す。特に記憶や認知に焦点をあて、日常場面への応用面を重視した研究を中心にした授業を行う。

CA206 認知心理学(記憶・認知)C

「認知心理学概説」の理解を踏まえ、認知心理学の分野について、より発展的な内容を学習する。認知心理学は、カバーする領域が記憶・思考・推論・言語・意識など広範囲に渡るだけでなく、ヒューマンエラーの研究や目撃証言研究など、日常認知研究を初めとした応用面での研究も盛んである。この授業では、人間の適応の中核として機能している認知システムについて理解することを目指す。認知科学や認知脳科学など、関連諸領域と融合した学際的な内容を中心とした授業を行う。

CA207 知覚心理学A

「認知心理学概説」の理解を踏まえ、知覚心理学の分野について、より発展的な内容を学習する。知覚心理学は、主として実験心理学の分野において視覚を中心に研究されてきたが、この講義では必ずしも視知覚だけに限定するのではなく、他のモダリティ(例えば聴覚や嗅覚など)の知覚や、複数のモダリティ間の相互作用(クロスモーダルな知覚現象)、さらには知覚運動協応なども含めた幅広いテーマと視点から、人間の適応の基礎となっている知覚システムについて理解することを目指す。

CA208 知覚心理学B

「認知心理学概説」の理解を踏まえ、知覚心理学の分野について、より発展的な内容を学習する。知覚心理学は、主として実験心理学の分野において視覚を中心に研究されてきたが、この講義では必ずしも視知覚だけに限定するのではなく、他のモダリティ(例えば聴覚や嗅覚など)の知覚も含め、精神物理学(心理物理学)を中心とした実験を通じて明らかになってきた人間の知覚について学ぶことを通じて、人間の適応の基礎となっている知覚システムについて理解することを目指す。

CA209 知覚心理学C

「認知心理学概説」の理解を踏まえ、知覚心理学の分野について、より発展的な内容を学習する。知覚心理学は、主として実験心理学の分野において視覚を中心に研究されてきたが、この講義では必ずしも視知覚だけに限定するのではなく、他のモダリティ(例えば聴覚や嗅覚など)の知覚も含め、物体認知や注意などといったより高次の知覚過程について学ぶことを通じて、人間の適応の基礎となっている知覚システムについて理解することを目指す。

CA210 発達心理学(言語・認知発達)A

「発達心理学概説」において学んだ発達心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、発達心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。発達心理学の研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、その研究手法についての理解も深めることを目指す。この講義では、コミュニケーションの発達を中心に解説し、発達心理学の発展的な内容を学習する。なお、発達心理学の理解を促すために、講義では視聴覚教材を用いる。

CA211 発達心理学(言語・認知発達)B

「発達心理学概説」において学んだ発達心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、発達心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。発達心理学の研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、その研究手法についての理解も深めることを目指す。この講義では、言語発達とその支援を中心に解説し、発達心理学の発展的な内容を学習する。なお、発達心理学の理解を促すために、講義では視聴覚教材を用いる。

CA212 発達心理学(言語・認知発達)C

「発達心理学概説」において学んだ発達心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、発達心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。発達心理学の研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、その研究手法についての理解も深めることを目指す。この講義では、老年期における言語や認知の発達や変化とその支援を中心に解説し、発達心理学の発展的な内容を学習する。なお、発達心理学の理解を促すために、講義では視聴覚教材を用いる。

CA213 発達心理学(情動・社会発達)A

「発達心理学概説」において学んだ発達心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、発達心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。発達心理学の研究により明らかになった知見を学

ぶだけでなく、その研究手法についての理解も深めることを目指す。この講義では、自己の発達および社会性の発達を中心に解説し、発達心理学の発展的な内容を学習する。なお、発達心理学の理解を促すために、講義では視聴覚教材を用いる。

CA214 発達心理学(情動・社会発達) B

「発達心理学概説」において学んだ発達心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、発達心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。発達心理学の研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、その研究手法についての理解も深めることを目指す。この講義では、情動の発達および社会性の発達を中心に解説し、発達心理学の発展的な内容を学習する。なお、発達心理学の理解を促すために、講義では視聴覚教材を用いる。

CA215 発達心理学(情動・社会発達) C

「発達心理学概説」において学んだ発達心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、発達心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。発達心理学の研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、その研究手法についての理解も深めることを目指す。この講義では、人間の発達を支える社会・文化的要因(たとえば家族など)を中心に解説し、発達心理学の発展的な内容を学習する。なお、発達心理学の理解を促すために、講義では視聴覚教材を用いる。

CA216 教育心理学(学校教育)

「発達心理学概説」および「認知心理学概説」において学んだ子どもの発達・学習メカニズムの基礎的理解をもとに、教育心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。教育心理学の研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、その研究手法についての理解も深めるとともに、教育現場への支援について理解することを目指す。この講義では、学校教育と心理学を中心に解説し、教育心理学の発展的な内容を学習する。なお、教育心理学の理解を促すために、講義では視聴覚教材を用いる。

CA217 教育心理学(障がい児教育) A

「発達心理学概説」および「認知心理学概説」において学んだ子どもの発達・学習メカニズムの基礎的理解をもとに、教育心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。教育心理学の研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、その研究手法についての理解も深めるとともに、教育現場への支援について理解することを目指す。この講義では、重度障がい児の心理と教育を中心に解説し、教育心理学の発展的な内容を学習する。なお、教育心理学の理解を促すために、講義では視聴覚教材を用いる。

CA218 教育心理学(障がい児教育) B

「発達心理学概説」および「認知心理学概説」において学んだ子どもの発達・学習メカニズムの基礎的理解をもとに、教育心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。教育心理学の研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、その研究手法についての理解も深めるとともに、教育

現場への支援について理解することを目指す。この講義では、軽度発達障がい児の心理と教育を中心に解説し、教育心理学の発展的な内容を学習する。なお、教育心理学の理解を促すために、講義では視聴覚教材を用いる。

CA219 臨床心理学(コミュニティ・家族)A

「臨床心理学概説」での理解を基にして、コミュニティ心理学の歴史と内外の動向を概観した上で、コミュニティ心理学の基本概念および背景となる理論について理解を深める。コミュニティ・アプローチとは、問題が起こっている個人ではなく、取り巻く環境としてのコミュニティに働きかけるもので、例えば、家庭・学校・地域・職場コミュニティに対して、どのような介入や支援や協働を行うかについて、実際の事例を通して学ぶと共に、さまざまな実践や研究活動を行う中で、コミュニティ心理学者への社会から要請や果たす役割についても検討する。

CA220 臨床心理学(コミュニティ・家族)B

「臨床心理学概説」での理解を基にして、心理療法の新しい展開を学ぶ。現在多くの心理療法において、特に家族療法とその近接領域で注目され始めた認識論の転回(ナラティブ)や、統合的心理療法の動向、家族への心理教育とエンパワメントについて、取り上げる。これらについての議論を通じて、心理臨床とはそもそも何を目指しているのか、また、専門家と当事者との協働、心理臨床職の果たす役割と在り方・倫理についても、実践に即して考察し、学べるように構成する。医療、福祉、などの分野との重なり合いについてもふれる。

CA221 臨床心理学(コミュニティ・家族)C

生涯発達心理学や「臨床心理学概説」での理解を基にして、まず、家族ライフサイクル、家族におけるジェンダーの問題などについて家族心理学の知見と論点を概観する。その上で、家族療法、ジェンダー・センシティブ・セラピー、その他の心理療法において、家族にとどまらず、より大きなシステム(学校、職場、地域、などの環境や、言説などを含む社会文化など)の中での関係性について見る視点からの、家族支援と個人や家族のエンパワメントについて、具体的なトピックに沿って、事例を検討しつつ論じる。

CA222 臨床心理学(心理療法・カウンセリング)A

「臨床心理学概説」での理解を基にして、心理的援助の基本となる心理療法とカウンセリングの方法について深く学ばせる。心理療法の成り立ちを概観した上で、パーソンセンタード・アプローチを中心に代表的な学派をとりあげ、各理論の歴史と背景、臨床場面での適用範囲等、実際的な問題等について最新の知見とビデオ等の教材も使いながら論じるとともに、心理療法という特殊な人間関係に伴う基本的な留意事項、倫理的問題等の重要なトピックについても講義する。

CA223 臨床心理学(心理療法・カウンセリング)B

「臨床心理学概説」において学習した臨床心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、発達臨床心理学における重要テーマをとりあげ、それらを解説する。発達の過程における情動や認知や思考などのつまづきや問題、様々な障害、適応と不適応の問題、社会的自立や精神的自立などについて学習し、障害児・者

の心、ならびにその周辺の人々の心への理解を深めるとともに、発達に即した彼らへの支援について多面的に考察する。

CA224 臨床心理学(心理療法・カウンセリング)C

「臨床心理学概説」において学習した臨床心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、教育現場を中心に、領域特有の臨床心理学的援助に関する重要テーマをとりあげ、それらを解説する。また現場で生じている具体的な心理学的問題と、その対応について背景にある理論とその実践について学ぶ。スクールカウンセラーをはじめとする専門家による支援について、他職種の協働、社会からの要請や果たす役割および、この領域特有の留意事項や倫理的問題等の重要なトピックも含めて講義する。

CA225 臨床心理学(不応・逸脱行動)A

「臨床心理学概説」において学習した臨床心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、不応行動や社会において問題とされる逸脱行動の理解とそれらへの心理臨床的支援を中心に、重要テーマをとりあげ解説する。不応行動や逸脱行動に関する最新の知見とトピックをとりあげ、どのような介入や支援や協働を行うかについて、実際の事例を通して学ぶ。またさまざまな実践や研究活動を行う中で、社会からの要請や果たす役割および、この領域特有の留意事項、倫理的問題に関しても講義する。

CA226 臨床心理学(不応・逸脱行動)B

「臨床心理学概説」において学習した臨床心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、現代クローズアップされているさまざまな心理的障害について、医療、福祉、司法面からの理論を紹介し、さまざまなアプローチによる回復支援や予防的方策の実態を知り、理解を深める。心理臨床とはそもそも何を目標しているのか、また、専門家と当事者との協働、心理臨床職の果たす役割と在り方・倫理についても、実践に即して考察し、学べるように構成する。また援助領域の特徴と関係する基本的な留意事項、倫理的問題等の重要なトピックに関しても講義する。

CA227 臨床心理学(不応・逸脱行動)C

「臨床心理学概説」において学習した臨床心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、医療、福祉等の現場における心理臨床活動について最新の知見をもとに具体的な例をあげ、重要テーマを解説する。心理臨床とはそもそも何を目標しているのか、また、専門家と当事者との協働、心理臨床職の果たす役割と在り方・倫理についても、実践に即して考察し、学べるように構成する。また援助領域の特徴と関係する基本的な留意事項、倫理的問題等の重要なトピックに関しても講義する。

CA228 精神保健学A

精神保健の概要を学ぶ。精神保健とは、その対象が精神科患者の処遇から一般市民の精神の健康にまで至る歴史的歩みを学び、人間が生涯をかけて成長していくさまを明らかにしていく。つまり、幼児期、学童期、思春期・青年期、成人期、中高年期、老年期に互ってさまざまな変遷があり、そこにある成長なる概念を学ぶ。その後、家庭、学校、企業、地域社会がもつ特有のシステムを明らかにし、その中で起こるさまざまな精神保健上の諸問題の概要を学習する。

CA229 精神保健学B

ここでは精神医学概論を学ぶ。総論としては、精神医学の歴史を始め、症候学(精神病理学)、診断学、さまざまな治療論(薬物療法、心理療法、社会療法など)を学び、各論では、統合失調症、妄想性疾患、気分障害、不安障害、ストレス関連性疾患、強迫性障害、解離性障害、身体表現性疾患、食・性・睡眠をめぐる精神医学的問題、子ども及び思春期・青年期に発症する精神疾患、脳器質性疾患(老年期認知症、症状精神病)、薬物の乱用や依存症をめぐる問題等が主な学習領域となる。

CA230 精神保健学C

特殊な視点からの精神保健学を学ぶ。例えば、精神保健学の基礎となる精神分析学に根ざした精神発達論、精神疾患論(統合失調症、神経症論)、認知行動療法による疾病論などを学び、さらに臨床例に照らした特異な諸問題、児童虐待、アスペルガー症候群、ドメスティック・バイオレンス、アルコール依存症、境界性パーソナリティ障害、犯罪に絡む精神医学的諸問題(精神鑑定)、企業におけるうつ病問題、フリータやニート問題等を教科書から離れた知識ならびに考え方を習得する。

CA231 社会心理学(マクロ)A

「社会心理学概説」において学習した社会心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、社会心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、領域ごとに異なる研究手法についての理解も深めることを目指す。大勢の人々との相互関係のなかで個人がおこなう行動とその集積を、集合行動と呼ぶ。本講義では、集合行動のさまざまな面を取り上げ、それらについて社会心理学的な解説を行う。

CA232 社会心理学(マクロ)B

「社会心理学概説」において学習した社会心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、社会心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、領域ごとに異なる研究手法についての理解も深めることを目指す。本講義では、世論形成という分野に焦点をあて、世論の形成過程について解説する。特にマスメディアの影響、インターネットの影響、あるいは身近な対人関係の影響などについて解説する。

CA233 社会心理学(個人間過程)A

「社会心理学概説」において学習した社会心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、社会心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、領域ごとに異なる研究手法についての理解も深めることを目指す。本講義では、メディアが私たちに与える影響について、社会心理学的観点から解説する。特に近年発達したインターネットや携帯電話といったメディアの影響を中心に解説する。

CA234 社会心理学(個人間過程)B

「社会心理学概説」において学習した社会心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、社会心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。研究により明らかになった知見を学ぶだけでな

く、領域ごとに異なる研究手法についての理解も深めることを目指す。本講義では、個々人の心理過程にとどまらず、対人関係の問題に焦点をあてる。対人関係の問題は多岐にわたるが、その中から主要なトピックを選び、解説する。

CA235 社会心理学(個人間過程)C

「社会心理学概説」において学習した社会心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、社会心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、領域ごとに異なる研究手法についての理解も深めることを目指す。本講義では、社会的影響過程に焦点をあてる。私たちが受ける周囲からの影響は、自覚されるものもあれば、自覚されないものもある。顕在的あるいは潜在的社会的影響過程について解説する。

CA236 社会心理学(個人内過程)A

「社会心理学概説」において学習した社会心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、社会心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、領域ごとに異なる研究手法についての理解も深めることを目指す。本講義では、私たちを取り巻く社会や他の人々そして、人々の関係について私たちがどのような理解するのかその認知過程を解説する。特に、認知過程における感情の影響や役割について重点を置く。

CA237 社会心理学(個人内過程)B

「社会心理学概説」において学習した社会心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、社会心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、領域ごとに異なる研究手法についての理解も深めることを目指す。本講義では、自己の問題を中心に取り上げる。自分についての知識、理解、判断、評価、推論の過程や自己呈示および自己をどのように制御するのかなど、自己に関わるトピックの中からいくつか焦点を絞って解説する。

CA238 社会心理学(個人内過程)C

「社会心理学概説」において学習した社会心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、社会心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、領域ごとに異なる研究手法についての理解も深めることを目指す。本講義では、対人認知という分野に焦点をあて、私たちが他者をどのように理解し、判断、評価、推論を行うのかという問題を取り上げる。対人認知過程に関わる重要なトピックを取り上げて解説する。

CA239 社会心理学(個人内過程)D

「社会心理学概説」において学習した社会心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、社会心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、領域ごとに異なる研究手法についての理解も深めることを目指す。本講義では、社会的推論という分野に焦点をあて、私たちが他者について、あるいはさまざまな出来事の関係や原因について、どのように推論するのか、その過程を解説する。

CA240 心理学特論(先端)A

本講義では、「認知心理学概説」、「発達心理学概説」、「社会心理学概説」、「臨床心理学概説」において学んだ基礎的な心理学の知識を前提に、上記4領域のオーソドックスなテーマには収まりきれない、先端的な心理学のテーマを扱う。積極的に伝統的な心理学の枠組みにとらわれない、新しい視点を提供することを目指す。よって、場合によっては、心理学の隣接領域を主たるフィールドとするようなテーマを取り上げることもある。

CA241 心理学特論(先端)B

本講義では、「認知心理学概説」、「発達心理学概説」、「社会心理学概説」、「臨床心理学概説」において学んだ基礎的な心理学の知識を前提に、上記4領域のオーソドックスなテーマには収まりきれない、先端的な心理学のテーマ、あるいは上記各領域における最新の知見を中心に、新しい視点を提供することを目指す。よって、場合によっては、心理学の限定された領域のテーマのみを取り扱うこともある。

CA242 心理学特論(先端)C

本講義では、「認知心理学概説」、「発達心理学概説」、「社会心理学概説」、「臨床心理学概説」において学んだ基礎的な心理学の知識を前提に、先端的な心理学のテーマを扱う。伝統的な心理学の枠組みにとらわれない、行動科学の新しい視点を提供することを目指す。心理学の隣接領域を主たるフィールドとするようなテーマを取り上げることもある。

CA243 心理学特論(応用)A

本講義では、「認知心理学概説」、「発達心理学概説」、「社会心理学概説」、「臨床心理学概説」において学んだ基礎的な心理学の知識を前提に、現代社会において重要な応用的テーマを扱い、心理学の知見が現実世界でいかに役立つかを学ぶ。心理学の研究成果の応用範囲は広範であるが、本講義では、総花的な解説ではなく、的を絞った解説を行う。同時に個々の領域の枠にとどまらない研究の枠組みを呈示する。

CA244 心理学特論(応用)B

本講義は、「認知心理学概説」、「発達心理学概説」、「社会心理学概説」、「臨床心理学概説」において学んだ基礎的な心理学の知識を前提に、現代社会において重要な応用的テーマを扱い、心理学の知見が現実世界でいかに役立つかを学ぶ。心理学の研究成果の応用範囲は広範であるが、本講義では、最新の知見を中心に、的を絞った解説を行う。よって、場合によっては、心理学の限定された領域のみ取り扱うこともある。

CA245 心理学特論(応用)C

本講義は、「認知心理学概説」、「発達心理学概説」、「社会心理学概説」、「臨床心理学概説」において学んだ基礎的な心理学の知識を前提に、現代社会において重要な応用的テーマを扱い、心理学の知見が現実世界でいかに役立つかを学ぶ。心理学の研究成果の応用範囲は広範であるが、本講義では、行

動科学としての心理学に的を絞った解説を行う。同時に個々の領域の枠にとどまらない研究の枠組みを呈示する。

基盤演習

CA301 1年次演習(心理学)

心理学の導入教育としての位置づけで、入門的な内容のテーマで演習を行う。具体的にはこれから4年間に渡る学びの基礎となる知識や技能、例えば、文献を探したり講読したりといった図書館の利用、資料を調べてレジュメを作る技能、プレゼンテーションや意見交換を行うスキル、などの全般的な習得を目指す。少人数による緻密な演習を展開する。

CA302 2年次演習(心理学)A

「1年次演習(心理学)」を踏まえ、この授業では、心理学の基礎的な内容を題材とした演習を行う。担当教員の専門領域をテーマとし、その分野の入門的なテキストや文献などを共通の材料として、テキストや文献の講読、資料作り、発表と質疑応答などを行う。取り上げた心理学のテーマについて深く理解することを目指すことはもちろん、より進んだ「3年次演習(心理学)」で必要となるスキルを身に付けることも目標とする。少人数による緻密な演習を展開する。

CA303 2年次演習(心理学)B

「1年次演習(心理学)」を踏まえ、この授業では、心理学の基礎的な内容を題材とした演習を行う。担当教員の専門領域をテーマとし、その分野の入門的なテキストや文献などを共通の材料として、テキストや文献の講読、資料作り、発表と質疑応答などを行う。取り上げた心理学のテーマについて深く理解することを目指すことはもちろん、より進んだ「3年次演習(心理学)」で必要となるスキルを身に付けることも目標とする。少人数による緻密な演習を展開する。

発展演習

CA401 3年次演習(心理学)A

「1年次演習(心理学)」および「2年次演習(心理学)」を踏まえ、この授業では、心理学の発展的な内容を題材とした演習を行う。担当教員の専門領域をテーマとし、その分野の発展的なテキストや文献などを共通の材料として、テキストや文献の講読、資料作り、発表と質疑応答などを行う。取り上げた発展的な内容について深く理解することを目指すことはもちろん、卒業論文研究に主体的に取り組むことができるよう、自立した学習者となることを目標とする。少人数による緻密な演習を展開する。

CA402 3年次演習(心理学)B

「1年次演習(心理学)」および「2年次演習(心理学)」を踏まえ、この授業では、心理学の発展的な内容を題材とした演習を行う。担当教員の専門領域をテーマとし、その分野の発展的なテキストや文献などを共通の材料として、テキストや文献の講読、資料作り、発表と質疑応答などを行う。取り上げた発展的な内

容理解にとどまらず方法論的な学習も含め、卒業論文研究に主体的に取り組むことができるよう、自立した学習者となることを目標とする。少人数による緻密な演習を展開する。

CA403 心理学特殊演習(臨床)A

「臨床心理学概説」、臨床心理学演習、「精神保健学」などを通して習得した臨床心理学の基礎的な知識や技法や研究の動向を元に、主として精神保健(メンタルヘルス)に焦点を当てた特殊演習を行う。この演習では、まず自らの精神保健のありように気づき、心の病を持つ人々への援助の理解を深めることを目的とする。学生は関心のある精神保健に関するテーマを設定して、文献検索・文献講読(邦英文献)・プレゼンテーション・ディスカッションを通じて、テーマの進化を図り、自らの課題について振り返る。

CA404 心理学特殊演習(臨床)B

「臨床心理学概説」、臨床心理学演習、「精神保健学」などを通して習得した臨床心理学の基礎的な知識や技法や研究の動向を元に、主として精神保健(メンタルヘルス)に焦点を当てた特殊演習を行う。この演習では、精神保健の専門家(医師・看護師・精神保健福祉士・教員など)および非専門家(ボランティア・家族など)との連携・協働に関する理解を深める。学生は、関心のあるテーマを設定し、文献検索・文献講読(邦英文献)・プレゼンテーション・ディスカッションを通して、精神保健領域での連携・協働のあり方を習得する。

CA405 心理学特殊演習(臨床)C

「臨床心理学概説」、各年次演習における臨床心理学の理解を基に、教育、医療、産業等における心理臨床的な介入の具体的問題を扱った学術論文および臨床心理学的な基礎研究に関する論文を講読させ、臨床心理学への理解をさらに深める。学生は、事例研究や基礎研究の文献の内容を理解し、問題点を整理して報告するという作業を複数回行う。また可能な限り論文内容と関係のある研究方法、心理検査方法および援助的介入方法について、体験的な理解と修得を図る。

CA406 心理学特殊演習(認知)

主として認知心理学の領域に焦点を当てた演習を行う。「特殊演習」であることを踏まえ、知覚・記憶・思考・言語などといった認知心理学の領域の中から、最先端のホットなトピックや境界領域的な内容、あるいは日常生活と密着した応用的な内容を取り上げ、少人数の演習形式で、文献検索・文献講読・プレゼンテーション・ディスカッションといった技能を習得する。同時に、これらの作業を通じて、クリティカル・シンキング(批判的思考)ができるようリテラシーの習得を目指す。

CA407 心理学特殊演習(社会)

本演習では、「社会心理学概説」において学んだ基礎的な知識を前提に主として社会心理学の領域に焦点をあてた演習を行う。「2年次演習(心理学)A・B」と「3年次演習(心理学)A・B」ではとりあげにくい先端的なトピックや、隣接領域との接点にあるトピックなどをとりあげる。また、上記演習では扱うことのない、統計技法、実験技法などを取り上げることもある。

CA408 心理学特殊演習(発達)

「発達心理学概説」において学んだ発達心理学全般にわたる基礎的な知識を前提に、主として発達心理学・教育心理学の領域に焦点をあてた応用的な演習を行う。発達心理学・教育心理学の領域の中から先端的なトピック、あるいは隣接領域との接点にある学際的トピックなどを取り上げる。少人数の演習形式で行い、主として英語の文献を講読して討論する。発達心理学・教育心理学の研究技法および解釈の仕方などを学ぶとともに、文献検索法およびプレゼンテーションの技法についても技能を習得する。

実験・実習

CA501 基礎実験演習Ⅰ

初めて心理学に触れることになる1年次の学生に対して、心理学の方法論を初歩的な実験などの体験を通して理解することを目指す。人のこころに対して実証的にアプローチすることの意味を解説し、こころを測定することとは何か、その長所と限界について考える。特に本実験演習では、実験法と質問紙法に焦点を当て、初歩的な実験や尺度構成を体験し、それらを通じて2つの研究方法について基礎的な理解を目指す。

CA502 基礎実験演習Ⅱ

初めて心理学に触れることになる1年次の学生に対して、心理学の方法論を初歩的な実験などの体験を通して理解することを目指す。人のこころに対して実証的にアプローチすることの意味を解説し、こころを測定することとは何か、その長所と限界について考える。特に本実験演習では、観察法と面接法に焦点を当て、初歩的な観察や面接を体験し、それらを通じて2つの研究方法について基礎的な理解を目指す。

CA503 一般実験演習ⅠA

基本的な研究方法の理解と習得を目指す。心理学の代表的な研究方法は、実験、観察、面接、調査に分類できる。本実験演習では、特に観察法と調査的面接法に焦点を当て、それぞれ実習を通じてその技法を習得する。また、知能の測定の基本となる知能テストについても本実験演習で学ぶ。週2コマの授業。(チェーン・レクチャー方式)

(観察法)観察法とは、人間の行動を注意深く見ることによって対象者を理解しようとする研究方法である。さまざまな事態や形態の観察法があることを学んだ上で、ビデオ等を利用して観察を実施し、記録の仕方・データのまとめ方についての実験演習を行う。観察法を実施する際の留意点や信頼性についても学習する。

(知能テスト)発達・教育相談の際に使用される検査のうち、WISC などの知能テストについて取り上げる。知能の概念や知能検査の作成過程について学んだ上で、知能テストを実施し、検査結果の整理の仕方についての実験実習を行う。検査法を実施する際の留意点や検査結果解釈上の留意点についても学習する。

(調査的面接法)面接法には、調査的面接法と臨床的面接法があるが、この実験実習では調査的面接法について取り上げる。面接法の種類・面接ガイドの作成法・面接実施上の倫理的配慮を学んだ上で、調査的面接を実施し、逐語録の作成や面接結果の整理の仕方についての実験実習を行う。

CA504 一般実験演習ⅠB

基本的な研究方法の理解と研究技法の習得を目指す。心理学の代表的な研究方法は、実験、観察、面接、調査に分類できる。本実験演習では、特に実験法と質問紙調査法に焦点を当て、それぞれ実習を通じてその技法を習得する。週2コマの授業。(チェーン・レクチャー方式)

(実験法)実験法の基礎を学ぶ。主に知覚、認知の領域における基礎的な実験を体験することで、心理学実験における統制、測定について理解を深める。分析、報告書のまとめにあたっては「心理学研究法2」の学習内容を踏まえて、具体的なデータを用いてデータの整理と記述の仕方を習得する。

(質問紙調査法)質問紙調査法の基礎を学ぶ。質問紙の設計、質問項目の作成、実査、初歩的な分析の作業を通じ、質問紙調査法の基礎的技法を習得する。分析、報告書のまとめにあたっては「心理学研究法2」の学習内容を踏まえて、具体的なデータを用いてデータの整理と記述の仕方を習得する。

CA505 一般実験演習Ⅱ

「一般実験演習 A・B」および「心理学研究法 1・2」において習得した基本的な研究方法についての技能と理解を前提に、より発展的な研究技法の習得を目指す。本実験演習では、特に臨床的面接と社会心理学実験をとりあげる。臨床的面接、および社会心理学実験の実習を通じて両技法の理解と習得を目指す。また、社会心理学実験のデータ分析に必要な統計処理についても学習する。週2コマの授業。(チェーン・レクチャー方式)

(臨床的面接)臨床的面接では、小グループによる実習によって、共感的応答、傾聴等を体験学習する。
(社会心理学実験)社会心理学実験においては、小グループに分かれ、実験者として、また実験参加者として社会心理学実験を体験し、その技法を理解する。実験実施にあたって配慮すべき様々な事柄についても学ぶ。

CA506 特殊実験演習1

「一般実験演習」の次の段階であり、「特殊実験演習2」や卒業論文研究への準備段階として位置づけられている実験演習である。学生は、自分の卒業論文研究のテーマと内容を想定して、実験演習の内容や担当教員を自分で選択する。心理学の領域ごとの必要性に応じて、卒業論文への前提として必要となる専門的な知識や技能の習得を目指す。具体的には、文献の検索、専門的な文献の講読、実験や調査等の研究計画の立案、学生自身による研究の実施、データ分析と考察、プレゼンテーションやレポート執筆などである。週2コマの授業。

CA507 特殊実験演習2A

4年間に渡る実験演習の総仕上げとなる授業であり、学生各々の卒業論文研究の遂行に必要な知識や技能の習得を目指す。前期のこの授業では、主として研究の前段階に必要な技能、例えば、文献の検

索、文献の批判的な講読、先行研究を踏まえた研究の立案、予備実験や予備調査の実施、などを学ぶ。これまでの実験演習と異なり、学生個々人の卒業論文の研究テーマに特化した個別的な内容とし、卒業論文研究の遂行と両輪をなすような内容とする。

CA508 特殊実験演習2B

4年間に渡る実験演習の総仕上げとなる授業であり、学生各々の卒業論文研究の遂行に必要な知識や技能の習得を目指す。後期のこの授業では、主として研究の後半に必要な技能、例えば、データの分析、統計解析や検定の実施、得られた結果の解釈、先行研究なども踏まえた考察、論文執筆の技法、などを学ぶ。これまでの実験演習と異なり、学生個々人の卒業論文の研究テーマに特化した個別的な内容とし、卒業論文研究の遂行と両輪をなすような内容とする。

コミュニケーション専攻

入門

CB001 コミュニケーション概論(人間とコミュニケーション)

コミュニケーションの概念やコミュニケーション過程に関するモデル、機能などコミュニケーション現象について理解を深める。そのための基礎的内容として、言語と非言語コミュニケーション、自己開示と自己呈示を中心とした対人コミュニケーションと自己とのかかわり、対人知覚と対人魅力を中心とした対人関係と対人コミュニケーションの問題、対人的影響、広告、説得などコミュニケーションと社会的影響、携帯とインターネットなどの新しいメディアとコミュニケーション、マス・コミュニケーションなどについて学ぶ。

CB002 コミュニケーション概論(社会とコミュニケーション)

現代社会におけるコミュニケーションの諸問題について、ミクロな視点とマクロな視点の両側面から取り上げ、理解を深める。社会変動によってコミュニケーションの形態は変化し、コミュニケーションをめぐる問題は複雑になっている。都市化、少子高齢化、電子情報化、グローバル化といった諸相は生活意識や相互理解にどのような問題をもたらしているか。共生社会をつくるうえで、メディアが効果的な役割を果たすには、市民はどのような働きかけをしていくことができるだろうか。ジェンダーの視点を活かしながら社会学的考察を深めていく。

基盤講義

CB101 統計の基礎

本科目では、統計的な記述の含まれる論文を読む力と、自分で統計資料を整理し、データを分析する力を養うために必要な統計学の基礎を講義する。具体的には、度数分布、基本統計量(平均、中央値などの代表値、分散、標準偏差、分位数などの散布度)、正規分布、変数の標準化、相関(相関係数、散布図、擬似相関、因果関係と相関関係の区別)、など、記述統計を中心に扱う。講義を理解したうえで、SPSSを使って自分でデータを扱うことも学ぶ。

特殊講義

CB201 対人関係論

人間は社会的動物である。いいかえれば、人と人との関係を通して自己を形成していく存在である。生まれた直後にはじまる第一養育者との関係と自己理解、さらにそれが対人認知の枠組みを広げていくと考えられる。日常生活の中で他者とのインタラクションが他者の認識と自己理解に影響していく。この講義では、対人関係の中で人間成長を、発達心理学的視点と社会心理学的視点から、生まれてから青年期、老年期までの対人関係を統合して検証していくことを目的とする。

CB202 文化心理学(文化と自己)

異文化に出会うことは、言葉や社会システム、習慣の違いに驚くことでもある。そのような違いは、行動ばかりでなく、心理プロセスにも表される。本講義では、心の社会的構造に着目する文化心理学を学ぶ。基本的概念である、文化的自己観と相互構成過程について実証研究から検証していく。特に東洋で優勢な相互協調的自己観と西洋で優勢な相互独立的自己観に基づく心の違いをながめながら、文化に生きる人を理解することが目標である。

CB203 文化心理学(文化と認知)

日常生活の中で、ふつうに考え、感じ、行動しながら、"心"は作られていく。本講義では、心の社会的構造に着目し、心と文化について、実証研究から検討する。近年の文化心理学的研究の中では、自動処理過程やオンライン過程といった認知実験研究の文化差が展開されている。西洋では文化的認知様式として、分析的思考が、東洋では包括的思考がそれぞれ優位となっていることが指摘されてきている。最新の知見を学びながら、文化の中での"心"について理解することを目標とする。

CB204 マルチメディアと心理学(聴覚)

情報技術が進歩し、映像や音声データがデジタル化され、さまざまな通信メディアを通じて人間のコミュニケーションを豊かにしている。そのマルチメディア技術は、人間の視覚・聴覚の情報処理特性に適合するように発展してきた。この講義では、人間の非常に優れた感覚情報処理の特性と、その特性がAV機器や通信技術などにどう反映されているのか、また高齢者・障害者の特性とユニバーサルデザインについても触れる。この科目については聴覚を中心に扱う。

CB205 マルチメディアと心理学(視覚)

情報技術が進歩し、映像や音声データがデジタル化され、さまざまな通信メディアを通じて人間のコミュニケーションを豊かにしている。そのマルチメディア技術は、人間の視覚・聴覚の情報処理特性に適合するように発展してきた。この講義では、人間の非常に優れた感覚情報処理の特性と、その特性がAV機器や通信技術などにどう反映されているのか、また高齢者・障害者の特性とユニバーサルデザインについても触れる。この科目については視覚を中心に扱う。

CB206 コミュニケーションの社会心理学(対人)

社会心理学が扱う領域の中から、特にコミュニケーション研究と関連の深いテーマを中心に講義する。前期は、社会的認知とコミュニケーション(スキーマ、ステレオタイプ、ヒューリスティクスなど)、帰属過程(基本的帰属錯誤、行為者-観察者効果など)、非言語コミュニケーション(表情や身振り・手振りによるコミュニケーション、縄張りとパーソナル・スペース、被服行動など)、態度変化と説得コミュニケーション(認知的不協和理論、ELMなど)といった、対人レベルに関する話が中心になる。

CB207 コミュニケーションの社会心理学(集合現象)

社会心理学が扱う領域の中から、特にコミュニケーション研究と関連の深いテーマを中心に講義する。後期は、文化とコミュニケーション(個人主義と集団主義、高コンテクスト・コミュニケーションと低コンテクス

ト・コミュニケーション、など)、噂・流言の社会心理学(噂の分類、噂の伝播過程、噂とメディアなど)、群衆心理(流言とパニック、集合行動のタイプなど)、流行現象とメディア(流行とは何か、なぜ流行するのか)など、主にマクロレベルに関する話を中心になる。

CB208 メディア心理学

メディアと情報化が人々に及ぼす影響および情報行動と心理について検討する。消費場面における情報発信行動、情報探索行動および情報処理行動、インターネットにおける情報行動と消費者行動、マス・コミュニケーションの過程と機能、マス・コミュニケーション過程におけるメッセージ生産、マス・コミュニケーション効果理論、マス・メディアの認知的効果、イノベーション普及学からみたメディアと普及現象とのかわり、流行の心理とメディアの影響、メディアと政治など、「メディアと心理」をキーワードにしたトピックを中心に講義する。

CB209 メディア社会学

本講義では、「メディア・コミュニケーション論」で学んだことを土台にメディア社会学や情報社会論の中からいくつか重要なテーマを選んで講義する。特に、マスメディアの持つ社会的影響については詳しく解説する予定。具体的なテーマとして、マスメディアの送り手分析、メディアが伝える情報の内容分析(特にテレビの内容)、メディアが及ぼす様々な影響・効果、メディア内容の法的規制・自主規制、情報化と現代社会などを取り上げる。

CB210 現代社会とコミュニケーション

本講義では、コミュニティという多義的な概念を追求しながら、現代社会の様々な場で共同性を作り上げていくことの意味を考察する。具体的なボランティアや市民活動を取り上げて紹介し、そこで活動するリーダーのキャリアやライフヒストリー、活動体のネットワークのあり方などを検討していく。NGO や NPO 活動を支える基本的な論理と、それを生み出す社会的背景、さらに社会に与えるインパクトなどについて論じ、活動体内部・活動体間のコミュニケーションや有効な広報活動、行政と市民との協働の可能性を探る。

CB211 ジェンダーとコミュニケーション

社会的・文化的に構築される性別・性差がジェンダーである。ジェンダーは、コミュニケーションや社会を理解しようとする際の私たちの知のあり方や、社会そのものを秩序立てる基本的な枠組みの一つとなっている。あらたな分析概念としてのジェンダーを学び、女性の積極的な社会参加や地位向上の阻害要因となってきたコミュニケーションのあり方を見直す。上下関係を作り出したり、すでにある権力関係を繰り返すのではなく、互いを尊重しつつあたらしい価値を実現することができるコミュニケーションを追求する。

CB212 情報社会と女性の職業 I

メディアやコミュニケーションの現状をめぐるジェンダー視点からの分析に関する講義を踏まえ、メディア・リテラシーの力を豊かにする。まずさまざまなメディアの映像や言説を多面的に解釈し、メディアが構成している世界観を読み解く力を養う。描かれている世界の背後にある描かれない局面、それを描かない価値観について検討することで、批判的視点を深める。これらはメディア・リテラシーの重要な側面である、

情報を発信する力の基盤となる。トレーニングの後、実際に、活字、映像、ウェブなど多様なメディアを通じた発信活動を行う。

CB213 情報社会と女性の職業Ⅱ

「情報社会と女性の職業」に引き続き、メディアやコミュニケーションの現状をめぐるジェンダー視点からの分析に関する講義を踏まえ、メディア・リテラシーの力を豊かにするトレーニングを行う。さまざまなメディアの映像や言説を多面的に解釈し、メディアが構成している世界観を読み解く力を養い、描かれている世界の背後にある描かれない局面、それを描かない価値観について検討することで、批判的視点を深めたうえで、実際に、活字、映像、ウェブなど多様なメディアを通じた発信活動を行う。

CB214 メディアと現代社会

現代社会においてメディアは大きな役割をはたしており、人々の意識や行動、人間関係、その人間関係を基礎とする集団・社会のあり方に大きく影響している。そのメディアのほうも変化しつづけており、上のような影響のあり方も変化している。従来のタイプのマスメディアとその人々や社会への影響を概観した後、モバイルメディア(携帯)およびインターネット(メール、BBS、ブログなど)などの新しいメディアに焦点をあて、その人々や社会への影響を考えることを目標とする。

CB215 メディア・コミュニケーション論

文明を発明して以来、人間のコミュニケーションの形態はいくつかの点で重要な変化をとげてきた。本講義では、様々な情報メディアの発展史と現状を概観しながら、人間コミュニケーション、特にメディアを通じたコミュニケーションの変化とその社会的影響について詳しく解説する。具体的には、文字の発明とその社会的影響、印刷術の完成とその社会的影響、新聞メディアの誕生とその社会的影響、映画の登場とその社会的影響、放送メディアの社会的影響と現状などについて取り上げる。

CB216 マス・コミュニケーション論

この授業の第1の目標は、マスコミ産業の歴史的変遷、産業構造の特質、マスコミの現場の過程について理解することである。具体的には、新聞、出版、放送、ニューメディアが登場した歴史的・法律的背景ならびにそれらメディアの特徴を横断的に把握する。第2の目標は、各マスコミ産業の特徴を踏まえた上で、この産業の使命・役割といった社会的責任について考察することである。その上で、マス・コミュニケーションが我々の日常生活とどう関わっているのかを多角的に検討する。

CB217 広告コミュニケーション論

広告の社会的および経済的機能を理解し、広告が伝える情報・イメージの分析、広告効果について考察する。説得コミュニケーション論、広告効果論、消費者行動論などの視点から広告理論を概観したうえで、日本と海外の豊富な広告事例をもとに、1)商品広告、企業広告、政治広告、公共広告、意見広告、広告とジェンダー・外国性など、広告表現の分析、2)各国のユーモア表現と広告効果、広告表現の国際比較、各国の広告表現に影響する要因など、広告と文化の分析、3)昭和と平成の広告の歴史からみた広告と時代の分析について論じる。

CB218 放送論

この授業では、まず、放送装置の発明の歴史と放送産業(ラジオとテレビ)の発展の歴史について学ぶ。次いで、それら放送産業に技術革命が及ぼした影響と意義について理解する。さらに、放送産業の構造的な特徴について学ぶことで、放送産業の産物である番組の制作過程についての知見を深める。その上で、放送メディアの内容(報道番組、ドキュメンタリー番組、バラエティ番組、災害放送、子供向け番組など)とそれらが視聴者に及ぼす影響について検討し、放送メディアとの付き合い方を多角的に考察する。

CB219 新聞出版論

本講義では新聞と出版という産業界の構造的な特徴、取材・制作過程、読み手との関係などの特徴を歴史的に整理し、それら産業の存在意義について考える。今日の活字媒体においては、"若者の活字離れ"が問題視される中、インターネット新聞や電子書籍・携帯書籍は新たな脚光を浴びている。こうした活字媒体の新たな形態は今後どうなっていくのか。また、本来の活字媒体は今後どうなっていくのかを読み手の嗜好との関係を考慮に入れて検討し、読み手の活字媒体との付き合い方について学ぶ。

CB220 メディア論

「メディア」という言葉は、一般には「マスメディア」と同義として使われることが少なくないが、本講義では「メディア」という概念をもっと広義に捉える。メディアを広義に捉えた場合、人間の身体を含めたコミュニケーション手段のすべてを含むことになるが、本講義では、まずメディアとは何かについて考える。そして、様々なメディアが人間のコミュニケーションのあり方や社会生活とどのように関わっているのかを詳しく検討していく。

CB221 ジャーナリズム論

日々ニュースメディアを通じて伝えられる重要な出来事をテーマにして、その問題の伝えられ方やそこに含まれる問題点、その問題の背景や社会的な意味、今後の見通しなどについて考える。ジャーナリズムが伝える「ニュース」をどう受け止めるべきかを考えるための基礎知識と分析視点についても講義する。また、日本に初めて近代的ジャーナリズムが誕生した明治初期から、テレビ黄金時代の現代に至る日本ジャーナリズムの発展の軌跡を振り返るとともに、今後のあるべき姿を検討する。

CB222 国際ジャーナリズム論

本講義では、米国、ヨーロッパ、東アジア諸国のジャーナリズムなどをとりあげ、その歴史的背景、現在置かれている状況、直面している課題などについて総合的に検討する。またそれを通じて、日本のジャーナリズムの問題点を照射し、その課題を探っていく。さらに、現代メディアの王道を歩むテレビ国際報道のメカニズムを理解し、世界の動きを多面的、批判的に把握する力を養うことを目指す。例えば、米国での9.11同時多発テロ、イラク戦争や北朝鮮問題の報道を具体的かつ詳細に検討する。

CB223 国際化とコミュニケーション

「国際化」という言葉は、社会情勢に応じて、いろいろな使われ方をしてきた。企業の海外進出が著しかったとき、働くために来日する外国人が増えたとき、グローバルスタンダードの導入が急務であったときなど、

その時代の必要に応じて、「国際化」という言葉の意味合いは異なっていた。しかし、国家・国民間の相互認識(相互イメージ)のありかたは、重要な問題でありつづけている。しばしば偏見やステレオタイプが現われ、滑らかな相互関係を阻害している。この問題について、具体的な素材や研究を見て、その実態や形成因について学ぶ。

CB224 異文化コミュニケーション

異文化コミュニケーションに関わる重要なトピックをいくつかとりあげて、講義に加えてディスカッションなども行い、深く学ぶ。トピックの候補としては、「異文化接触」「メディアと異文化理解」「自文化中心主義と偏見」「価値・信条体系」などがある。深く学ぶために、受動的に講義を聞くだけでなく、選ばれたテーマに関して、さまざまな情報を集め、ディスカッションし、その結果をシェアすることとする。

CB225 情報社会論

近年、インターネットや携帯電話の急速な普及に伴い、「情報社会」という言葉が一般に広く用いられるようになってきたが、情報社会(あるいは情報化社会)という概念自体の登場は 1960 年代にまで遡ることができる。本講義では、情報社会がこれまでどのように論じられてきたのかを概観しながら、情報社会とはいかなるものであるのか、情報社会において人々のライフスタイルはどのように変化しているのか、などについて考える。また、情報社会の類義語として用いられるネットワーク社会やデジタル社会などとの相違についても検討する。

CB226 情報科学論

現在および今後の高度情報通信社会に、積極的に参画するために必要な基本的知識と分析能力を養う。自然科学および社会科学の両方の切り口で、情報化社会を理解するための基本的な手法を学ぶ。具体的には、情報のデジタル化やインターネットの仕組みを理解することを通して「情報」についての理解を深める。また、様々な媒体での情報伝達を分析し、メディアリテラシーの素養を身に着ける。さらに、デジタルデバイドや情報倫理など、情報社会について考察する。

CB227 情報とコミュニケーション

本授業では、情報社会の発展段階とコミュニケーションの変化、情報社会における情報リテラシー問題、デジタルデバイドの現状と対策、ケータイ電話やインターネットなど新しいコミュニケーション手段と家族、友達、企業、社会とのコミュニケーションの姿、著作権など知的財産権とコミュニケーション・メディアの関係(動画共有サイトとコンテンツ流通の問題を含む)、プライバシーや個人情報保護に関する問題、違法情報や有害情報へのアクセスの規制と表現の自由の問題、そしてそれらに関する法律・制度・倫理などについて論じる。

CB228 情報システム1(データベース)

「情報システム」とは「情報」、すなわち「意味のあるデータ」を取り扱うシステムであり、コンピュータとネットワークの急速な発展にともなってさまざまな場面で活躍している。また「データベース」は、情報システムで扱う大量のデータを効率よく利用する技術として重要である。本科目では、システムアドミニストレーション

について、実習もまじえて、情報システムの基本を理解する。授業の前半はリレーショナルデータベースとSQL、後半は表計算によるデータ処理について、実践的に学ぶ。

CB229 情報システム2(設計と管理)

「情報システム1(データベース)」に続き、実習をまじえ、情報システムを活用するエンドユーザの立場から、データベース以外の情報システムについて学ぶ。インターネット、データ分析と問題解決の技法、文章化をはじめとする表現能力と発表技術、ヒューマン・コンピュータ・インタラクション、セキュリティ、信用、プライバシー、ソフトウェア開発の手法、設計と管理など、情報処理技術に関して重要なことを、実践的に学ぶことができるように授業を組み立てている。

CB230 情報通信ネットワーク1(ネットワークプロトコル)

ネットワークの基本を系統的に学ぶ科目である。(「シスコ・ネットワーキング・アカデミー」のセミスター1に相当する。)OSI 参照モデルを中心としたネットワークの基礎、ルーティング、UTP ケーブル作成、ネットワーク利用のトラブル・シューティングまで、ウェブ教材も使い実習をまじえながら授業を行う。その中では、ウェブ教材などが用いられ、受講者は、原則として、自分のノートパソコンを用いてこれに参加する。

CB231 情報通信ネットワーク2(通信サービスとセキュリティ)

前期の「情報通信ネットワーク1(ネットワークプロトコル)」に続く科目である。(「シスコ・ネットワーキング・アカデミー」のセミスター2に相当する授業である。)各自に配布するネットワークのシミュレータソフトと、全部で数台あるルータの実機を用いて、静的ルーティング、動的ルーティング、ネットワーク構築作業のトラブル・シューティングに必要なスキルを、実習をまじえながら授業を行う。受講者は、原則として、自分のノートパソコンを用いてこれに参加する。

CB232 インターネット概論

普段何気なく使っているインターネットであるが、それが人間同士のコミュニケーションや社会に与えている影響は大きく、現代社会にはなくてはならないインフラにまで成長した。本講義では、インターネットが一体どう動いているのか、その仕組みを述べ、インターネットがどのような役割を担っているのかを紹介しながら、インターネットとはどのようなものなのかについて講義する。また、学んだことからインターネットの持つ可能性について展望する。

CB233 インターネット応用

今やさまざまな局面でインターネットが利用されている。必要な情報を容易に取得できる利点もあるが、ウイルス被害や個人情報流出といった問題点も存在する。本講義では、社会においてインターネットがどのように利用されているかを見ながら、インターネットに求められていること、インターネットの可能性について考える。特に、社会基盤としてのインターネットに求められている、セキュリティに関する問題や新しいコミュニケーション形態について学ぶ。

CB234 情報と職業

情報社会の進展に伴い、ITを活用した新たな働き方として、企業におけるテレワークが普及してきた。これはワークライフバランスに配慮したワークスタイルであり、女性のみならず、男性、および高齢者、障害

者にとっても、柔軟な働き方をもたらすユニバーサルなものである。また地方での起業も可能にし、地域の活性化に貢献する可能性も大きい。この授業では、ITが21世紀の働き方やライフスタイルに及ぼす影響と、ユニバーサルなユビキタス情報社会が拓く将来の可能性について議論する。

CB235 コミュニケーション特論(心理)

人間や生体のコミュニケーションには、コミュニケーションの主体(人間や生物)の心が果たす役割が大きい。同様に、コミュニケーションは、それに関与している主体の心の動きにも影響を及ぼしてくる。心理学がコミュニケーションと関係してくるのは、このような側面においてである。そこで、「コミュニケーション特論(心理)」では、コミュニケーションに関わる心理学的な研究の中からトピックや分野を限定し、それについて詳しく、しかし平易に講義する。

CB236 コミュニケーション特論(社会)

人間と社会に対する理解を深めるため、これまで社会学分野で行われてきた代表的な研究、それら研究から導き出された諸理論と概念を検討する。そうすることで、社会学の研究方法についても学ぶ。今日私たちが直面している様々な社会問題について考え、その改善と解決に向けて何ができるか、その手掛かりを得ることもこの授業の重要な目標の一つである。そのため、受講生には、授業時間外にも、いま私たちが抱えている社会的な問題が、マスコミでどのように取り上げられているかについて関心を持つことが求められる。

CB237 コミュニケーション特論(メディア)A

メディアは現代社会の重要な情報源となっており、私たちの生活や現実認識に様々な形で影響を及ぼしている。また、既存のマス・メディアに加えて、携帯電話やインターネットなど、新しいメディアの登場によって私たちの生活においてメディアのもつ意味は益々大きくなっている。この授業では、私たちとメディアのかかわりについて検討するため、メディア・コミュニケーションに関する諸理論と研究を取り上げ、多様化しているメディアとコミュニケーションの諸問題について理解を深めていく。

CB238 コミュニケーション特論(メディア)B

この講義ではメディアと人権について考える。取材対象の問題や外国人、女性、高齢者など特定の集団、とりわけ社会的マイノリティと言われている人々に対する取材や報道・描写の内容、さらにそれらマス・メディアの内容が視聴者や読者に与える影響について具体例を見ながら検討する。また、近年問題になっている、犯罪報道などにおいてよくみられる集団的過熱取材(メディアスクラム)との関連でメディアと人権問題(例えば被害者や被疑者のプライバシー侵害)についてもとりあげる。

CB239 コミュニケーション特論(国際)A

他の文化との出会い、他の文化と自分の文化を比較することにより、個人の意識や行動パターンは変化していく。異文化適応や文化心理学に関する理論を学び、異文化接触の具体的事例を通して、どのように個人が新しい文化や他者との出会いを通して自分を作り替えていくかを学ぶ。具体的には「文化とコミュニケーション」に関する研究の流れ、異文化適応・文化心理学などに関する理論について学び、子ども

の異文化体験や日本にいる移民の異文化体験など異文化接触の具体例を紹介し、それについての議論・発表などもおこなう。

CB240 コミュニケーション特論(国際) B

メディアが多様化するなか、国境を越えたコミュニケーションのあり方もさまざまに変化してきている。旧来のメディア、新しいメディアを問わず、国や地域によってその位置づけや内容は異なっており、社会のなかで異なる役割をはたしている。まずそれらの違いについて学び、それをおさえた上でさらにメディアを通じておこなわれる国際理解(あるいはメディアによって引き起こされる誤解)について具体例の紹介・議論・発表などを通じて深く学ぶ。

CB241 コミュニケーション特論(情報) A

WWW は、能力や環境にかかわらず誰でも(人間はもちろん人間の代わりに働くコンピュータプログラムでも)多様な形で情報を利用できる、ユニバーサルな情報空間として誕生した。この基本を正しく理解するため、URI や文字コードといった基盤から、HTML や CSS などのなじみのある技術、さらに XML や RDF のような発展的な技術までを、原典(仕様書)を踏まえて学ぶ。さらに、これらの技術を用いてデータを自分で(コンピュータを使って)表現しながら、WWW の可能性について実習をまじえて考えてゆく。

CB242 コミュニケーション特論(情報) B

情報技術に関わる話題について、その時々最新のテーマを取り上げる。その分野で研究を行っている講師を迎えて、デモや実験や実習を交えて、初学者でもわかるように授業を進める。具体的なテーマは開講年度によって変わるが、情報技術と人間の両者に関わる分野に焦点を置いて、音声インターフェース、障害者向けの支援技術、ヒューマン・コンピュータ・インタラクション、ユニバーサル・デザイン、ユーザ中心設計などの話題を扱う。

基盤演習

CB301 1年次演習(コミュニケーション)

学生は「1年次演習(コミュニケーション)」で、演習という授業形式に初めて参加する。演習では、教員だけでなく、受講生も主体的に、授業の内容を構成していく。高校までの、どちらかという無批判的な吸収一方の学習スタイルから、批判的で主体的・探索的な学習スタイルへ変わる訓練をする。1年次の演習では、コミュニケーション学への入り口として、関連の文献や資料を読み、内容を吟味し、発表し、討論することを通して、学習の仕方のみならず、自分の意見をまとめ、プレゼンテーションを行う力も養う。

CB302 2年次演習(コミュニケーション)

「2年次演習(コミュニケーション)」では、コミュニケーション学について「1年次演習(コミュニケーション)」よりも深い学習と議論ができるようにする。そこで2つの工夫をしている。1つは、コミュニケーションのさまざまな分野に視野を広げる目的で、「2年次演習(コミュニケーション)」では学生には少し自分の中心的な関心分野を離れて他の分野について勉強することを奨励する。もう1つは、研究や学習のために必要となったときに困らないように、コミュニケーションに関する英語の文献を教材にするという工夫である。研究分野についての視野とともに、海外での研究にまで視野を広げることができる。

発展演習

CB401 3年次演習(コミュニケーション)Ⅰ

「3年次演習(コミュニケーション)」では、学生が自らの関心に基づいて演習担当者を選び、その指導のもとに専門領域の知見を増やしなが、次第に自分の研究テーマを深く掘り下げ、自己の問題意識を明らかにし、研究の方法論を確立していく。演習の形式は「2年次演習(コミュニケーション)」までと変わらないが、内容はより専門的で、読む文献も学術雑誌の論文などが中心となる。「3年次演習(コミュニケーション)Ⅰ」では文献研究によって問題意識を深めつつ自分の関心に合ったテーマを探していくことが中心となる。

CB402 3年次演習(コミュニケーション)Ⅱ

「3年次演習(コミュニケーション)」では、学生が自らの関心に基づいて演習担当者を選び、その指導のもとに専門領域の知見を増やしなが、次第に自分の研究テーマを深く掘り下げ、自己の問題意識を明らかにし、研究の方法論を確立していく。演習の形式は「2年次演習(コミュニケーション)」までと変わらないが、内容はより専門的で、読む文献も学術雑誌の論文などが中心となる。「3年次演習(コミュニケーション)Ⅱ」では「3年次演習(コミュニケーション)Ⅰ」よりも具体的に研究を遂行するために必要な方法や概念について議論を深め、4年次に行う卒業研究の準備を行う。

CB403 4年次演習(コミュニケーション)Ⅰ

「4年次演習(コミュニケーション)」では、個々の学生の卒業研究と連動させなが、演習が行われる。卒業研究は、先行研究のレビューや研究の問題意識の明確化、仮説の設定、実証データの収集、その集計と統計分析、結果の考察、論文執筆にいたる一連の課程である。それを担当教員の支援を受けなが、遂行していく。多くの授業時間外の学習や努力が学生に要求される。

CB404 4年次演習(コミュニケーション)Ⅱ

「4年次演習(コミュニケーション)」では、個々の学生の卒業研究と連動させなが、演習が行われる。「4年次演習(コミュニケーション)Ⅱ」の期間に、実証データの収集の後、その集計と統計分析、結果の考察、論文執筆、繰り返し加筆修正を行うという一連の過程が行われる。これらを担当教員の支援を受けなが、遂行していく。多くの授業時間外の学習や努力が学生に要求される。

実験・実習

CB501 コンピュータ・スキルズ

データ処理を intensive に行うため、これまでに習得したコンピュータやインターネットを利用した コミュニケーション技術を復習・強化しなが、新たに表計算ソフト、統計パッケージソフトを用いてデータ処理や統計分析の初歩をマスターし、コミュニケーション研究法や卒業論文研究に生かせるよう実践的に学ぶ。

CB502 コミュニケーション研究法入門

コミュニケーション研究は学際的であり、社会学や心理学などさまざまな学問分野で発達してきた多様な研究方法が用いられている。本講義ではその中で最も重要な4つ(質問紙調査、質的研究、内容分析、実験)の研究方法を、講義と実習を交えて学んでいく。また、「統計の基礎」を前提に、基本的なデータ分

析方法も学ぶ。この授業を通して、各自の興味に会わせて、どのような方法が可能であるかを知り、3年次に履修予定の上級コースである「コミュニケーション研究法実習」につなげ、さらには卒業研究へと結びつけていく。週2コマの授業。

CB503 コミュニケーション研究法実習(質問紙調査法)

人々の意識・行動を科学的にとらえるための質問紙調査法の企画・実施と結果の分析とまとめ方を、実習を通じて、深く学ぶ。仮説や研究課題の設定、調査の企画と設計、調査方法の決め方、調査方法の種類と特徴、学術調査・世論調査・マーケティングリサーチの違いと特徴、調査倫理、尺度の種類、質問文・調査票と作り方と調査票作成時の注意事項、調査票作成の実習とプリテストの実施、全数調査と標本調査、サンプリングの理論と実際、標本数と誤差、データの整理、データ分析、結果のまとめ方について、講義だけでなく実習をまじえて学ぶ。

CB504 コミュニケーション研究法実習(実験法)

人間のコミュニケーションを実証的に研究する上で、仮説を検証するためには最も強力とも言える研究方法である、実験法について実習をまじえて学ぶ。人間を実験対象(被験者)にする実験のパイオニアである心理学の領域において蓄積されてきた実験の手法を、研究目的の設定、検証可能な操作的仮説への落としこみ、実験計画の立案、実施、データの整理、統計分析、考察と結論、報告書の作成まで全手順を複数回体験しながら、分析方法について、単純な差の検定から分散分析、多重比較、重回帰分析、因子分析を実験方法と対にして学ぶ。

CB505 コミュニケーション研究法実習(内容分析)

量的内容分析の方法とそれによって得られたデータの解析方法について、実習をまじえて解説する。内容分析とは何か、内容分析にできることとできないこと、内容分析の一般的手続き(サンプルの選び方、コーディングシートの作り方・作成上の注意事項、データの集計方法、データの分析方法、結果のまとめ方)などを、質問紙調査との比較を通じながら詳しく学んでいく。また、重回帰分析を中心に、分散分析や因子分析など主要な多変量解析法の基礎についても学ぶ。

CB506 コミュニケーション研究法実習(質的研究)

さまざまな質的データの収集方法(インタビュー = 構造化面接・焦点面接または半構造化面接・非構造化面接、観察、参与観察など)や分析方法について実習をまじえて解説する。現代の質的研究は、フェミニズムやポストモダニズム以降の実証主義批判や序列関係のない調査関係の追求といった特徴を持っている。各自の関心を生かしたフィールドワークも織り込みながら、卒業論文で実際にこれらの方法を応用した調査研究を行うことができるよう、事例研究、観察、参与観察などの手法を習得し、その活用に向けた指導を行う。

CB507 社会調査法実習 I

この授業の目的は、受講者が社会調査のプロセスを経験することにより、社会調査を計画し、実行するために必要な知識とスキルを獲得することである。「社会調査法実習 I」では、まず社会調査の目的(何が分かるか)と方法(質問紙調査、内容分析、インタビュー調査など)について理解する。次に、先行研究の整

理と調査の企画、仮説構成、調査に向けての準備(調査項目の決定や質問票の作成、サンプリングなど)を実査に向けて行い、調査を実施し(質問紙の配布と回収、インタビュー、コーディング・シートを使っての内容分析)、データを収集する。

CB508 社会調査法実習 II

この授業の目的は、受講者が社会調査の実際を経験することにより、社会調査を計画し、実行するために必要な知識とスキルを獲得することである。「社会調査法実習 II」では「社会調査法実習 I」で収集したデータを整理、分析し、報告書にまとめる作業を行う。質問紙調査あるいは量的な内容分析を行った場合には、データの入力ならびに統計ソフト(SPSS)を用いたデータの加工・分析についても指導する。インタビュー調査などの質的方法によりデータを収集した場合には、データの整理に続いてデータの解釈について受講者からも案を募り、報告書にまとめる。

言語科学専攻

入門

CC001 言語研究入門A

英語を中心に、言語を研究する上での基本的な概念と分析方法を学ぶ。言語表現の音と意味、語の構造、文の構造、文脈から導かれる意味、言語の史的変化など、人間の言語が持つ多様な側面を考察する。英語に見られる現象を例に、人間科学科科目「人間科学概論I」「人間科学概論 C」の内容を補い、言語科学専攻の英語研究・言語研究関連の科目への導入を行う。

CC002 言語研究入門B

日本語を中心に、言語を研究する上での基本的な概念と分析方法を学ぶ。言語表現の音と意味、語の構造、文の構造、文脈から導かれる意味、言語の史的変化など、人間の言語が持つ多様な側面を考察する。日本語に見られる現象を例に、人間科学科科目「人間科学概論I」「人間科学概論 C」の内容を補い、言語科学専攻の日本語研究・言語研究関連の科目への導入を行う。

CC003 言語研究入門C

言語は人間が日常的に用いているものであるが、普段はそれほど意識されてはいない。特にまだ言語学にあまり接したことのない学生が「ことばとは何か」という疑問を持ち、興味を持つようになること、ことばの中に見られるさまざまな驚くべき性質を知り、それからの言語研究の各分野への導入となることを目標とする。講義は、学生の自主的な興味を喚起させるべく、ディスカッションや各自のこれまでの言語体験に関する発表をおりませたものとする。

CC004 言語研究入門D

第1言語(母語)として「自然に」使用してきた日本語について、第2言語として日本語を学ぶ学習者の視点から、改めて意識的にとらえなおす。日本語教育の現場で学習者から出される疑問や誤用などを参考にしながら、文法、語彙、音声、文字・表記といった言語の構造の側面から、また実際のコミュニケーション場面における社会言語学的・社会文化的な側面から、日本語の特性を考え、多様な言語および言語文化を相対的に見る視点を養う。

基盤講義

CC101 一般音声学I

言語にとって非常に重要な要素である音声、発音のメカニズム、音素の体系を理論的に学び、日本語、英語のみならず、他の多くの言語の音声の特徴、調音の違いの理解につなげる。本講義では、音声器官の働き、母音、子音の弁別的特徴、音縮約、同化、音節、音素配列などに焦点をあて、一般音声学の基礎を修得させる。

CC102 一般音声学Ⅱ

音声学の基礎的知識の上に更に、世界の言語音を対象に音声についての知識を深めることを目標とする。音声と書記法についても考え、音声を正しく聞き取り、音声記号で書きとめる実習も行う。また、文のレベルでのプロソディー、強勢とピッチ、声調、リズムやイントネーションや音韻規則などについても考察する。

CC103 英語音声学

人間の発声器官の仕組みとその器官を用いて発される言語音の特徴、国際音声表示、強勢やリズムなどの超分節的特性など、言語の音声を理解するために必要な基礎に基づき、英語の音声の特徴を学ぶことを目標とする。同時にこれらの知識を活かして英語の発音、聞き取り能力の向上をめざす。週2コマの授業。

CC104 英文法Ⅰ

英語の文構造についての基本概念を学び、英語に見られる品詞・用法、さらに個々の文の構造上の規則性や、形と意味のずれ、スピーチレベル、認知との関係などに注目する。「英文法を習う」のではなく「英文法を考える」ことを目指す。単文の構造、文のタイプと談話における機能、等位接続、複文の構造などを中心に、英語の文の仕組みを考える。

CC105 英文法Ⅱ

「英文法Ⅰ」で学んだ基礎に基づき、さらに英語の仕組みについて考察を深める。英語に見られる規則性・不規則性や、スピーチレベル、談話文法、意味と認知との関係などに注目する。動詞と助動詞、動詞句の意味、名詞と冠詞、前置詞、形容詞などを中心に、意味、形態、統語的な観点も加え、英語の構造を詳しく学ぶ。

CC106 英語史Ⅰ

アングロサクソン人のブリテン島渡来を契機とする英語の発祥(古英語)から、その後の変遷(中英語～初期近代英語～現代の英語)と国際語への拡がりに至る過程を辿り、内的・外的要因による様々な変化を概観して、人間言語のひとつとしての英語の通事的な姿の理解をめざす。その上で現代英語との関連を考えながら過去の英語の姿を観察し、英語に起きた変化と各時代の社会的・文化的背景との関係を考えることによって、現代英語および言語と社会の関係についての知見を深める。

CC107 英語史Ⅱ

「英語史Ⅰ」で学んだ英語の史的变化の知識をさらに深めるとともに、地域的な変異との関連を学ぶ。スコットランド・ウェールズ・北アイルランドの英語、アジアの英語、アフリカの英語などを含めた世界の英語の多様性、英語と他の言語の間に発生した影響、英語圏内のマイノリティの実態などを取り上げ、現代の世界および日本における英語教育のあり方を考える基盤となる知識・知見の獲得を目指す。

特殊講義

CC201 音韻論Ⅰ

音素、音節構造、強勢やイントネーションなどの基本概念について学ぶとともに、日本語や英語などの言語を例に、言語ごとの特色について考察するのが目的である。「音素」とは何か、言語ごとに、また、時代ごとに、その体系はどう異なるか、また、各言語で可能な音節はどのようなもので、それを構成する原理はどのようなものか、さらに、強勢やイントネーションのパターン、リズムは言語ごとにどのような特色があるのかなどの問題を探っていく。

CC202 音韻論Ⅱ

「音韻論Ⅰ」で学んだ事象をさらに掘り下げて考察するとともに、知識を体系化していくのがねらいである。母音や子音の働きはいかなるものか、人間はそれをいかに知覚しているのか、強勢やイントネーションが果たす役割は何か、言語リズムと音楽のリズムとの関係はどうなるのかなどの問題を考察する一方で、音韻論に関するさまざまな理論(生成音韻論、最適性理論、自律分節理論、Metrical Theory など)の考え方や特色を探る。

CC203 形態論Ⅰ

日本語・英語・その他の言語を例に、語の内部構造を分析し、人間の言語能力の中の語形成のメカニズム、複数の形態素から成る語の意味と形(音声言語における音形、手話における手・表情の動き)の関係を決するメカニズムを探る。直感的な「語」という概念を見直し、ひとつの語を形作る複数の形態素間に許される関係を見極め、「語」の構成原理を考える。

CC204 形態論Ⅱ

語形成に関する言語間の差異・共通性を手がかりに、人間の言語能力の中で様々な形態素とその組み合わせにより成り立つ語構造が果たす役割を考える。言語ごとに許される形態素の形やその結びつきが異なることにより、その言語に特有の「個性」が生み出されているということを見出し、その多様な組み合わせのメカニズムに共通する原理を探り、人間言語に共通する普遍的な特質について考察する。

CC205 統語論Ⅰ

英語、日本語、その他の言語の多様な統語現象の中に規則性を発見し、人間の脳に内在する認知能力の一部を成す文生成のメカニズムを探る。一見互いに異なる構成素構造や文法範疇の間に見られる一般性、および言語間の共通性と差異についての手がかりを確かめていく過程を経験することによって、言語を見る眼を養うとともに、データを分析する能力、議論を組み立てる能力を強化する。

CC206 統語論Ⅱ

統語移動や束縛関係などの長距離依存関係のメカニズムを例に、構文を超える一般性の吟味、言語間の対照などに基づき、人間の脳に内在する普遍的な文生成のメカニズムについての考察を深める。仮説の体系から予測を導き検証する過程、規則性の記述から説明へと分析を深める過程を通して、思考力や

分析力を養うとともに、自然界の一部であり自らのこころの一部でもある「人間の言語能力」に迫ろうとする人間の知的営みを体験する。

CC207 語用論Ⅰ

語用論の分野でこれまでに取り上げられてきた諸問題を紹介しながら、広く人間の言語使用について考える。「人間言語」という抽象化した概念の構造分析を中心とする言語研究の方法と対比させて、具体的な生きた人間のやり取りの中に実在することばに注目することで見えてくる問題を取り上げる。話者が何を考えているか、それを聞き手はどのように推論するか、二人以上の主体である人間のかかわりが問題となる。自分の心を表現し、相手の心を読むというコミュニケーションの問題に迫ることになる。

CC208 語用論Ⅱ

英語語用論の分野で取り上げられてきた、言語使用の中心である発話研究、会話研究の諸問題を概観する。発話行為、会話の公理、話者交代のメカニズム、ポライトネスの問題などを探りながら、英語の具体例を考える。さらに、自分たちの会話行動に目を移し、日本語の具体例をも考えることによって、ことばによるコミュニケーションを通しての人間理解を深めることを目的とする。

CC209 意味論Ⅰ

言語表現の意味の諸相を探る。意味という形に見えないものについて、漠然とした印象を語るのではなく、その性質を明示的に捉えるために、意味的に類似する言語表現の間の関係、より複雑な表現の中で共起しうる表現の間の関係、文の表す命題間の関係など、意味論の分野の様々なトピックについて考察する。年度により、語用論、統語論、形態論等の隣接分野にまたがるテーマにも言及する。

CC210 意味論Ⅱ

「意味論Ⅰ」で概観した言語表現の意味の諸相を踏まえ、比喩表現などにおける意味の拡がり、認知的背景、通時的な意味変化など、意味に関わる様々なトピックを取り上げる。我々の周囲に観察されるレトリックなど、言語表現の具体例の分析に触れ、また自ら分析を試みることを通して、人間の言語で表現しうる意味の可能性とその仕組みを考える。

CC211 コーパス言語学Ⅰ

コンピュータを利用して言語テキストを分析するコーパス言語学の初歩を学ぶ。履修者ひとりひとりが分析を体験することを通してコーパスを活かす言語研究の考え方を身につけ、目的に沿ったコーパスを作成するための留意点、統計的に捉えることのできる言語現象の種類、コーパス言語学を言語研究その他の目的に活用する可能性、などについての理解を深める。

CC212 コーパス言語学Ⅱ

「コーパス言語学Ⅰ」で学んだ知識・技能を基礎に、コーパスを活かす言語研究をさらに深めることを目標とする。履修者ひとりひとりが、各種コーパスを利用して使用頻度、連語的結びつきの強さとキーワードなどを調査し、その結果のデータを語彙・文法・談話・ジャンルの分析に活かせるようになることを目指す。

CC213 文体論Ⅰ

文体論に関する初歩的知識を身につけ、さらに日ごろ目・耳にする英語ないし日本語のテキスト・発話の文体に意識的に注目する姿勢を身につける。文体論という研究分野への導入の後、音韻論、書記論、語彙、意味論、統語論、韻律、前景化、言語使用域、修辞法などに触れながら詩の文体・発話・テキストの文体などについて考える。

CC214 文体論Ⅱ

文体理論および文体分析に関する知識を活かし、文体を意識した英語ないし日本語の文章の作法を考える。「小説の文体」および「文体理論」を中心に、語り、視点、話法、時間の移動、テキスト間相互関連性、メタフィクション、文体論の歴史、教育的文体論、創作文体論などに触れながら、読み解くテキストと自ら創り出すテキストの文体について考える。

CC215 言語類型論A

世界の言語はさまざまな基準によって分類が可能である。起源、発達過程も異なったり、また逆に同じ祖語を共有するものであったりする。本講義では比較言語学と対照言語学を概観した上で、言語の類型について考える。世界の言語を類型的に見る場合によく取り上げられる言語現象 語順、格標示、ジェンダーや類別辞、数標示などの統語、形態的特徴 を多地域の言語を対象に考察し、言語の普遍性とは何かを探る。

CC216 言語類型論B

世界のさまざまな言語の言語現象を考察し、それらの中で共通した特徴や相違点を探る。その上で、言語の一般的な性質、普遍的ないし個別的な特徴、類型的分布、言語の発達、民族、文化との関連性などを考える。本講義では、先ず、類型論研究がどのようなものであるかについて論じ、次に世界の言語を典型的な類型に分類し、どのような言語特徴が互いに関連し、共起するものであるか、何が普遍的な特徴といえるか等の問題について考える。

CC217 文字表記論A

文字の存在意義と機能、文字の基本的性質、文字と言語との関係、字体・字形・書体およびその弁別特徴と余剰特徴、句読法、文字表記の方向・配列・配置、他の平面図形や空間認識との関係など、文字表記をめぐる問題を取り上げ、人類の言語における文字の位置・役割という問題を考える。

CC218 文字表記論B

文字表記の実態とその分析を取り上げ、様々な文字体系、言語との対応、表記スタイル、表記の方向など、文字表記をめぐる様々な問題および文字表記の多様性と文字表記システム間の類似性などを中心に、人類の言語における文字の位置・役割という問題を考える。

CC219 社会言語学A

社会生活の中での言語の諸相とそのとらえ方について、主に日本語の具体事例を取り上げながら学ばせる。日本語の地理的変異に着目し、貴重な言語資料である全国に広がる様々な語の分布から、ことばの生成・発展・衰滅のプロセスをたどっていく。小方言から中核方言への統合現象や衰退する伝統方言

に代わる新しい方言の発生・浸透などの実態もふまえ、共通語との接触による方言の変容、それに伴う方言の運用や意識の問題についても考えていく。

CC220 社会言語学B

社会生活の中での言語の諸相とそのとらえ方について、主に日本語の具体事例を取り上げながら学ばせる。日本語の変種を年齢差、性差、場面差などの多角的な視点からとらえ、表現形式や談話構造のパラエティを探っていく。ことばの規範、アイデンティティとことばとの関係を言語意識の側面からとらえ、コードスイッチング、コミュニケーションストラテジー、敬語選択などの言語運用に具現されていく状況を、背後で作用している様々な社会文化的要因を視野に入れながら考えていく。

CC221 Cross-Cultural Understanding A

英語を通して、さまざまな角度から、異文化について理解を深め、それによって、自文化についても考える。受講者の主体的な参加を求めるため、プレゼンテーションもとりにいれたインタラクティブな授業形態とする。たとえば、イギリスにおける英語文化のさまざまな側面、アメリカ社会の多文化・多言語性、西洋文化と日本文化の比較検討などが主なトピックとなる。

CC222 Cross-Cultural Understanding B

英語を通して、さまざまな角度から、異文化について理解を深め、それによって、自文化についても考える。さまざまなテーマのもとで文化のあり方を理解し、言語研究や言語教育に活かせる知見を得ると同時に、英語によるイマージョン科目として授業をすべて英語で行うことにより、履修者の英語の運用能力を高めることも目標とする。

CC223 言語文化論

言語と文化の相互関係について考察することを目的とする。いくつかの言語を例にとり、色彩表現、時間の区切り方(時制・アスペクト)、politeness の表し方、情報の提示の仕方などにおける言語間の異同に関する考察を通して、言語の恣意性に関するソシュールの言説や「言語が違えば世界の見方が異なる」とする Sapir-Whorf 仮説の吟味を行う。心理学やコミュニケーション研究との関係も視野に入れて、人間の「世界」に対する認識様態や異文化間コミュニケーションについて理解を深める。

CC224 翻訳研究Ⅰ(翻訳と異文化理解)

広い意味での異文化交流・異言語間コミュニケーションを考え理解するうえで、「翻訳」が果たす役割に着目した講義科目である。翻訳の役割を多角的に検討する手がかりとして、翻訳された作品と原作とのズレの諸相や、翻訳出版のなされ方などを具体例を通して学ぶ。たとえば、近現代の英米文学、とくに「名作児童文学」の日本における翻訳受容史と影響関係などを取り上げる。合わせて、「翻訳研究」という新しい学問領域のさまざまなアプローチについても学び、「翻訳研究Ⅱ(異文化摩擦の諸相)」の基礎をつくる。

CC225 翻訳研究Ⅱ(異文化摩擦の諸相)

「翻訳研究Ⅰ(翻訳と異文化理解)」で学んだことを基に、「翻訳」を通してさらに深く異文化交流・異言語間コミュニケーションについて考える。講義科目ではあるが、学生自身の問題発見に基づいた発言を促し、インタラクティブに進める。主として、プロの翻訳者により翻訳された文と原文との比較対照をおこない、そ

こに見られるズレの諸相をとらえ分析する。たとえば、言葉がより複層的な意味をもって用いられる文学作品を素材として、現代日本文学の英訳や、現代英米文学の日本語訳などを、各原文と比較検討する。

CC226 文学とことばA

「文学とことば」に関して、さまざまな角度から考える。主として散文を素材にし、文学からのアプローチとする。たとえば、テーマとしては、「子ども性」(childness)をキーワードに英語圏児童文学作品の変遷を概観する、ファンタジー作品を成立させている見えないものを見えるように描く「ことば」の用いられ方を多角的に検討する、文体と作品のテーマの結びつきを分析する、などがある。

CC227 文学とことばB

「文学とことば」に関して、さまざまな角度から考える。主として韻文などを素材とし、ことばからのアプローチとする。たとえば、テーマとしては、以下のようなものがあげられる。英語のリズムや韻について韻文を中心にさぐる。ナーサリーライムや古謡の形式とテーマのバラエティを見る。あることばや事柄・動植物のモチーフを複数の国の文学作品で横断的にさぐる。ことばと論理のからくりをナンセンス文学を素材に分析する。特定のことば(翻訳語を含む)の用いられ方の変化を歴史的に分析する、など。場合によっては、複数担当者による連続講義形式も想定する。

CC228 言語とアイデンティティ

ことばが発せられた時、人はその言語の中に情報内容だけでなく同時にその言語の話者の持つ公的および私的なアイデンティティを感じとっている。本講義では、人の身体的ないしは精神的アイデンティティ―年齢や性別、性格や経歴などの側面―や、話者社会の民族性や文化、価値観、社会構造と言語がどのように関わっているかを考察する。言語を用いる際のコンテキストや社会方言、文体、マイノリティー言語、国家と言語政策などのトピックについても探る。

CC229 言語と社会の諸相A

広告のことば、新語の使われ方、商品のネーミング、political correctness、プロパガンダ、言語的マイノリティー・バイリンガル・バイカルチュラルの人々を巡る環境など、社会の中の様々な言語現象を取り上げて考察する。他の言語科学専攻科目の知見を社会言語学的考察・社会学的考察につなげることによって、言語と社会の関係について認識を深めることを目的とする。

CC230 言語と社会の諸相B

現代社会で話されている言語は地域的にも社会的にも大変多様化したものである。言語が社会の中で果たしている様々な役割を考え、またこれまでの、あるいは現在進行中の言語変化について考察することにより、言語そのものの理解とともに言語の社会的側面の理解を深める。

CC231 言語とところA

幼児の言語発達、大人の発話・聴解・読解、失語症の症例などに関する事例研究と、言語理論・学習理論等を吟味し、母語の獲得、言語運用、脳内の言語処理などのメカニズムについて考察する。さらに、他の言語科学専攻科目の知見を心理言語学的な考察につなげることによって、言語と「ところ」の結びつきについての総合的な認識を育むことを目的とする。

CC232 言語とこころB

幼児の言語発達、大人の発話・聴解・読解、失語症の症例などに関する事例を手がかりに、母語の獲得、言語運用、脳内の言語処理など、人間のこころの中の言語に関わるメカニズムを概観する。心理言語学的考察に触れ、身近な言語現象を吟味することを通して、日常の言語活動の中にも人間のこころを見る手がかりが溢れていることを発見する。

CC233 第二言語習得基礎論Ⅰ

これまでの主要な第二言語習得理論を概観し、第二言語(外国語を含む)習得のメカニズムについて学ぶ。行動主義理論、生得説、臨界期仮説、社会文化理論、インタラクション説などを中心に理論を学んだ上で、母語(第一言語)習得と第二言語習得の類似点と相違点、第二言語の習得順序、母語が第二言語習得に及ぼす影響、子供と大人の習得の違い、更にバイリンガル教育についても考察し、第二言語習得過程の全体像をつかむことを目標とする。

CC234 第二言語習得基礎論Ⅱ

「第二言語習得基礎論Ⅰ」で学んだ習得理論についての知識を踏まえ、「第二言語習得基礎論Ⅱ」では、第二言語(外国語)の学習に影響を与えるさまざまな要因について検討する。第二言語習得の過程では、学習者の置かれた環境などの外的要因のほかに、学習者の言語適性、性格、動機、年齢などの内的要因が相互に作用しているが、その複雑な現象を理解し、考察することを目標とする。学生各自の言語体験をこれまでの主要な研究成果に照らし合わせながら考察を深める。

CC235 日本語教育研究概論Ⅰ

日本語教員養成課程の最初の必修科目として、日本語教育について、関連領域も含めた広い視野から概観し、国内および海外のさまざまな学習者に対して行われる日本語教育の多様性を捉え、日本語教師となるために持つべき資質と能力についての見通しを持つことを目標とする。「日本語教育のための教員養成について」(文化庁、2003)に示された教育内容を踏まえ、「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語一般」の5領域から日本語教育の対象、環境、内容、方法等について考察する。

CC236 日本語教育研究概論Ⅱ

日本語教育について、関連領域も含めた広い視野から概観し、国内および海外のさまざまな学習者に対して行われる日本語教育の多様性を捉え、日本語教師となるために持つべき資質と能力についての見通しを持つことを目標とする。この授業では、多様な日本語学習者の個々について理解するための観点、学習支援の基本である日本語説明能力、日本語教育能力を中心に、日本語教師として必要となる知識・能力に重点をおいて考察する。

CC237 日本語教育研究Ⅰ

日本語教育について、社会的行為としての言語教育という視点と、個人の認知活動としての言語習得という視点の両面から見ることによって、言語教育を動的に捉える力を養う。社会的視点を中心に取り上げ、外国語としての日本語教育(JFL)と第二言語としての日本語教育(JSL)の相違、各国の言語政策や言語

教育政策と日本語教育の目標設定の関係を理解することによって、教室での実践事例を分析的に捉える。またコミュニケーション能力、社会文化能力など日本語教育が育成すべき能力について、諸理論を踏まえて考察する。

CC238 日本語教育研究 II

日本語教育について、社会的環境からみた言語教育という視点と、個人の認知活動としての言語習得という視点の両面から見ることによって、日本語教育の実践を動的に捉える力を養う。この科目では、学習者の認知や学習行動など、個々の言語習得における多様性や個別性を理解するため、認知心理学や教育心理学、異文化間教育学など関連諸領域の研究の動向や理論について学ぶ。それら理論の日本語教育への応用を考えることによって、4年次の「日本語教育実習」につなげる準備とする。

基盤演習

CC301 Writing Skills 1

Through a variety of exercises and activities, this course will give practice in commonly used types of English sentences and will familiarise students with the most common techniques of topic selection and development. Also included are paragraph structure and various expository writing styles such as temporal and spatial organisation, expressing opinions, describing processes and giving instructions.

(さまざまな作文練習により、標準的な英語の文体、および、主題の提示や論の進め方について学ばせる。あわせて、段落の区切り、時空構成、意見やプロセスの表現、指示文等の書き方についても学ぶ。)

CC302 Writing Skills 2

Building on the organisational concepts learned in Writing Skills I, students will study and apply the techniques for planning, developing, organising, writing, and revising expository English essays. Writing styles introduced and practised will include definition, classification, comparison, cause and effect, persuasion/ argument, summary, and analysis.

(「Writing Skills 1」で学んだ文章構成法に基づき、さらに、英語論文を書く上での文章の立案、発展、全体の構築、推敲に関するスキルを学ぶ。これには定義づけ、分類、比較、原因と結果、反論と議論、要約や分析が含まれる。)

CC303 2年次演習(言語科学)

1年次で学んだ言語研究入門を踏まえ、言語についての専門知識を深めるため、少人数で行う演習。母語の獲得や第二言語の習得のメカニズムの研究、言語能力や言語の発達、言語(方言)のバラエティ、認知能力の考察、歴史、比較言語学などの演習から選択できる。担当教員の専門分野に関わりなく、研究方法の基礎や学術論文の書き方を学ぶ。文献資料の活用、引用のしかた、問題提起とその対処方法、調査や分析法、口頭発表のしかたなどについても学ぶ。

発展演習

CC401 3年次演習(言語科学)

2年次で学んだことを基に、学生各自が自分の関心に応じた専門分野の研究を深めることを目標とする。「4年次演習(言語科学)」に続いて行くものであるため、卒業論文執筆に備えた知識や方法論を学ぶ。語用論、日英語対照研究、言語習得論、翻訳と翻訳研究、統語論、形態論、少数言語研究などの専門分野から選択することができる。学生は意欲的にディスカッションや発表に参加することが求められる。

CC402 4年次演習(言語科学)

これまでの演習で学んだ知識や方法論を生かして、学生各自が自分自身の研究テーマを追求するための演習。各自の研究は最終的に卒業論文として成果が発表されるため、その制作のための専門知識の拡充、資料の活用、(アンケート等の)調査の実施、教員の論文執筆指導に加え、教室での論文発表、他の学生とのディスカッション、フィードバックも含まれる。

CC403 Advanced Writing

This is an advanced course in expository academic writing. Students will learn how to extract and synthesize relevant information from various types of writing and summarize it without plagiarism, and to produce coherent, well-organized written work with a suitable layout. An important feature of this course is the production of a research paper which should prepare students to write their graduation thesis in English.

(英語論文を書くための上級者向けクラス。学生は、さまざまなタイプの文献から情報を如何に抽出し引用するかを学び、また、盗用を避けて自分の論に組み込み、論旨の通った文章を適切なレイアウトで書く練習も行う。とりわけ、卒業論文を英語で書く準備となるよう導く。)

CC404 Advanced Reading & Discussion A

This course is designed to help students develop their capacities to read, discuss, and write intelligently about a broad range of topics. It begins with the acquisition of those analytical skills required for a clear comprehension of what is being expressed in a wide variety of texts, and develops those creative skills of self expression that permit one through verbal interaction and argument to contribute to the formation of sound opinion.

(さまざまなテーマの文章を読み、論じ、書く力を磨くための演習。種々のタイプのテキスト読解から始めて、分析力、自分の見解を言語化して表現する能力、他者と論じ合う能力などを高めることがねらいである。)

CC405 Advanced Reading & Discussion B

This course is designed to help students further develop their capacities to read, discuss, and write intelligently about a broad range of topics. It aims to further develop the analytical and self-expressive skills acquired in Advanced Reading and Discussion A.

(さまざまなテーマの文章を読み、論じ、書く力を磨くための演習を通じて、「Advanced Reading and Discussion A」で培った自己表現力、分析力をさらに伸ばすことをめざす。)

CC406 Advanced Speaking A

The purpose of this course is to give the students ample opportunity to practice a wide variety of the speaking skills that are required of all those who wish to become participating members of the international community. The main focus of Advanced Speaking A will be on conversational pragmatic skills.

(国際的なコミュニティの一員となるために必要な、スピーキング能力を磨く機会を提供することを目標とする。「Advanced Speaking A」では、実際の英会話で有用なスキルを習得させることを主眼とする。)

CC407 Advanced Speaking B

The purpose of this course is similar to Advanced speaking A, namely give the students ample opportunity to practice a wide variety of the speaking skills that are required of all those who wish to become participating members of the international community. Its main focus will however be on presentation skills.

(「Advanced Speaking A」と同様、国際的なコミュニティの一員となるために必要な、スピーキング能力を磨く機会を提供することを目標とする。「Advanced Speaking B」では、特に、口頭発表のスキルを身につける。)

実験・実習

CC501 フィールド言語学

予備知識の全くない言語や方言を辞書や文法書に頼ることなく自分で分析する力を養うことを目標とする。フィールド言語学に関する論文を読み、調査方法や問題点を考える。また、言語を記述する上での基礎となる言語学の知識を養い、実際の言語話者(年度により異なる言語の話者をコンサルタントとする)から、学生自身(小グループの単位)が聞き取り調査を行い、文法の方法、音韻、語彙、形態の記述を行う。その後、各自の分析のレビューを行い、クラスでディスカッションを行う。言語調査の経験は、学生自らが言語の仕組みについて積極的に考え、分析する足がかりとなる。

CC502 日本語教育実習

日本語学習支援の行うために必要な事前準備、実践、実践に関する評価という教育の全体を経験する。この授業では日本語学習のコースデザイン、授業の設計、教材作成、評価などについて、実践に向けた指導を行う。それに基づいて学生は学内あるいは学外において教育の実践を経験し、そこで得た知見や疑問について、授業でフィードバックを行う。

さらに、実践の評価・改善を可能にするため、学生個々の目標設定とその評価の方法の明確化、評価のためのデータ収集と記録、データに基づく振り返り(評価)を実施し、口頭での発表と報告書作成を通して、学生相互の経験の共有と理解の深化を図る。